

意見公募（パブリックコメント）手続の実施結果について

案 件 名	登別市一般廃棄物処理基本計画の中間見直し（案）	
意見の募集期間	令和2年12月4日から令和3年1月4日	
担当グループ	登別市市民生活部環境対策グループ	
意見の提出件数	2件	
提出された意見の概要と市の考え方		
NO	意見の概要	市の考え方
1	<p>ごみ輸送に関して、神奈川県川崎市で運行しているJR貨物運行「クリーンかわさき号」のようなJR貨物を活用した輸送を、白老町との間で運行はできないものか。実際に白老町から登別市まで距離があり、また、クリンクルセンターの向かい側には空き地があり、そこをJR貨物の駅にしてごみを鉄道輸送をしてはどうか。</p> <p>川崎市の事例では、「発電付きごみ処理工場」であったりするわけだが、梶ヶ谷貨物ターミナル駅から末広町駅まで専用のコンテナ「クリーン川崎号」で鉄道輸送をしている。</p> <p>また、余力があるのなら、伊達市や室蘭市他西いぶり地域のごみを受け入れて、市の収入にしてはどうか。</p>	<p>川崎市が行っている廃棄物の鉄道輸送は、川崎市の南北に長い地理的条件や、人口の増加が著しい北部のごみを当該地域で処理できず、南部の施設で処理しなければならない施設の配置に関する問題や、交通事情悪化に伴う運搬効率の低下、収集車の排ガスによる大気汚染問題などを背景として行われているものであり、トラックでごみステーションから回収した後、貨物コンテナに積み替え、鉄路で移送、その後、再度トラックに積み替え、焼却処理場へ輸送するという方法をとっています。</p> <p>川崎市が抱えている背景と本市の状況は異なるものがあり、事業化は難しいものと考えております。</p> <p>また、西いぶり地域のごみの受け入れについてですが、現在、クリンクルセンターでは、建設から20年が経ち、人口減少とともにごみの焼却量も減少しておりますが、令和11年度まで施設を稼働できるよう毎年度、延命化工事を行うための工事期間が必要であり、これにより運転日数が減少していることから、恒常的に他市のごみを受け入れる余力はないものと考えています。</p>
2	<p>ごみ収集車の電気自動車化も検討すべきではないか。</p> <p>実際の運行作業はごみ処理会社が行なっているが、二酸化炭素排出抑制の観点から、電気自動車化も急務ではないか。</p>	<p>川崎市がごみ焼却により得られる発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システム」によるEVごみ収集車を2019年に日本初として導入しておりますが、EVごみ収集車は、通常のディーゼル車と比較すると車両価格が2～3倍以上高いうえ、電池の重量の分だけ最大積載量が小さくなってしまいうな</p>

		<p>ど、導入や運用の面でまだまだ制約が大きいことから、現時点において本市での導入は考えておりません。</p> <p>なお、二酸化炭素排出量の削減には有効な手法の一つではありますので、先進事例等について注視していきたいと考えております。</p>
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------